

「国立市第3次農業振興計画」中間評価報告書（素案）に対する意見募集（パブリックコメント）結果

(1) 意見募集期間 令和4年（2022年）7月12日（火）から令和4年（2022年）8月1日（月）

(2) 意見提出者数 1名（いただいたご意見及び市の考え方は下表のとおり）

項	いただいたご意見	市の考え方
1-1	計画年次が複数年にわたるので、年号は西暦表記にしてほしい。	報告書（素案）内の年号につきましては、文中は和暦のみとする一方、挿入した表やグラフでは、比較や推移をご理解いただきやすい様に和暦と西暦の両方を記載しておりました。 いただいたご意見を踏まえ、報告書内で記載される年号については全て和暦と西暦の併記とさせていただきます。
1-2	東村山市、国分寺市、小金井市、町田市のように、施策や事業それぞれにSDGsゴール・ターゲットとの関連性を明記し、そのゴール・ターゲットの観点からの評価を行ってはどうか。	持続可能な開発目標（SDGs）につきましては、国家レベルでの取組みを要する目標も掲げられている一方、各自治体の取組みとの関連性が高い目標も存在しており、市としては、日々の行政運営による各目標への貢献を意識しているところです。農業分野としては、特に「2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」の2目標について、各農業振興事業で掲げる目標との関連性が高く、積極的に推進すべきと認識しております。 一方で、平成29年度（2017年度）に策定した「国立市第3次農業振興計画」には、持続可能な開発目標（SDGs）の視点は盛り込まれておらず、今回の中間評価報告書では、策定時に設定した重点施策ごとの目標進捗を評価させていただいた次第です。 今後、「国立市第3次農業振興計画」の計画後期となる令和4～8年度（2022～2026年度）を経て、新たな農業振興計画を策定するにあたっては、持続可能な開発目標（SDGs）で掲げる目標についても加味し、計画の目標設定を行ってまいりたいと考えております。